

優秀賞

大学生部門〈手術・病気〉

東京未来大学

倉本 佳澄

## あなたの好きなものはなに？

私は、「あなたの好きな食べ物は何に？」と聞かれると、真っ先に「お寿司！」と答える。特にサーモンのお寿司。お寿司屋に行ってもサーモンしか食べないくらい大好きだ。そんな私がお寿司を食べられなくなる日がくるとは誰が想像したのだろうか。

カナダへの修学旅行を目前にした高校二年生の秋。ひどい頭痛と吐き気とともに朝、目が覚めた。風邪だと思っていた私を、母は脳外科に連れて行った。母の直感はあたっていた。診断結果は予想以上に悪く、脳に腫瘍が見つかった。即入院と言われ、翌週に手術、その翌週からは抗がん剤治療が始まった。考える暇もなく色々なことが進み、気づいたら無菌室での隔離状態。薬の副作用で髪の毛もすべて抜け、大好きなお寿司も食べられる状態ではなかった。もちろん修学旅行にも行けない。そんな私を母は優しく見守ってくれた。後に聞いた話では、担当医からは五年生存率の話をされ、遺影に使う写真まで選んでいたそう。そのような状況でも、母は、無菌室で泣くことしかできない私を暗い顔ひとつせずはげましてくれた。

半年後、私の病気を専門的に扱う病院を見つけた。車で二時間かかる所だったが迷うことなく転院。丸々一年かけて投薬治療を行い効果がでた。検査の結果も良く、担当医からの了解をもらって、私と母は病院の帰り道にお寿司屋に向かった。大好きなお寿司を目の前でほおぼる私を見て母は号泣した。母は一年半にもおよぶ入院生活を終え、我慢していたものを笑顔で食べる私の姿をみて安心したようだ。私はその姿をみて「これからは私だけの命ではない」と思うようになっていた。

現在、私は大学生になった。今年はずいぶん発病から五年。入院中、一緒に病と戦った戦友、大学で知り合った同じ病気経験をした仲間、正しく病気を理解してくれる大学の先生。そして、いつもそばで見守ってくれる大好きな母。私は今、そして未来を生きます。